



2025年1月
CES 2025 - 速報レポート
コンシューマー・エレクトロニクス・ショー

発行年月：2025年1月
レポート番号：3000a-25

SBD Automotive について

1997年の創業以来、日本、欧州、米国、中国の拠点から自動車技術の調査・コンサルティングを提供しています。

専門分野:

コネクテッドカー

自動運転

モビリティ

EV

サイバーセキュリティ

防盜技術

提供サービス:

業界における
課題の把握

▶ 客観的なデータ
の提供

▶ 独自のインサイト
の提供

▶ 戦略の立案

“Seeing Beyond Data”

データに基づいた実行可能な提案を提供します



SBD Automotive
のサービス



調査レポート



評価/
コンサルティング



詳細に関する
お問い合わせ

3000a - CES 2025 - 速報レポート

CES 2025について »

4

- CES 2025の紹介とその背景
- これまでのCES来場者・出展者データ
- SBDの印象に残ったポイント
- SBDが4SモビリティをCESで発表
- CES 2025プレミアムレポート

主要トレンド »

10

- CES 2025の主要トレンド
- 主要トレンド 1：ヘッドアップディスプレイ
- 主要トレンド 2：AI
- 主要トレンド 3：ソフトウェアディファインドビークル
- 主要トレンド 4：乗員モニタリング
- その他のトレンド

CESのトレンドの推移とOEMのアプローチ »

18

- CESのトレンドの推移
- CESへの出展に関するOEMのアプローチ

次のステップ »

21

- SBDの調査サービス – コンサルティングサポート
- SBDの調査サービス – 調査レポート

お問い合わせ先 »

24

**お客様からのフィードバック**

本レポートについてご意見をお聞かせください





CES 2025について

CES 2025の紹介とハイライト



目次



SBDについて



お問い合わせ

自動車市場は安定していないが、エレクトロニクス需要は堅調

CES2025の紹介とその背景

CESは毎年、ラスベガス・コンベンション・センターと市内の各会場で開催され、自動車メーカー、サプライヤー、テクノロジー企業、家電メーカー、ソフトウェアプロバイダーなどが参加し、展示を行う。

CES 2024開催時の市場環境と比較すると、米国の自動車市場は引き続き好調であるが、欧州とアジア太平洋の市場はやや不調である。一般的に言って、2024年の新車販売台数は2023年と比較して同程度か、若干減少している。

CES 2025に向け、いくつかの市場（特に欧州とアジア太平洋地域）では消費者の購買力が低下しており、その結果高級ブランドがやや露出度を高めている。例えば、Volkswagenグループでは、SkodaとSeatが前年比で2024年の販売台数を伸ばしたが、Audi、Bentley、Porscheは前年を下回っている。Mercedes-Benzも販売台数が減少し、前年の実績を達成していない。

これとは対照的に、2024年はパリ・オリンピックと欧州カップ（サッカー）が開催されたため、欧米市場では2023年に比べてテレビの売上が増加した。HisenseとTCLは、北米市場における2023年のテレビの販売台数は好調だったと報告している。



CESプレミアムイベントレポート

CESプレミアムイベントレポートでは、ラスベガスで開催される本イベントの展示内容やトレンドをさらに詳しく調査し、本イベントが自動車業界に与える影響の全容について包括的に洞察した結果を主な話題、発表、詳細分析とともに紹介する。

[詳細](#)


これまでのCESの全体的な傾向


2019

見えないところが
スマートな
「シャイテックカー」


2020

音を知覚する
「オーディトリカー」


2021

拡張現実を
搭載した
「オグメンテッドカー」


2022

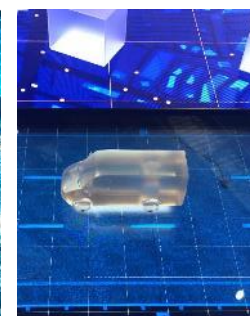
没入感が得られる
「イマーシブカー」


2023

実用的な
「プラクティカルカー」


2024

会話ができる
「カンバセーショナル
カー」


2025

VR技術を利用した
「バーチャルカー」

これまでのCES来場者・出展者データ



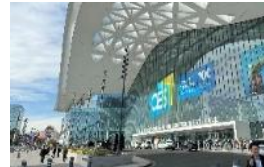
2021

2022

2023

2024

2025



2025年のハイライト



BMW
Panoramic
iDrive



Honda
0 Concept



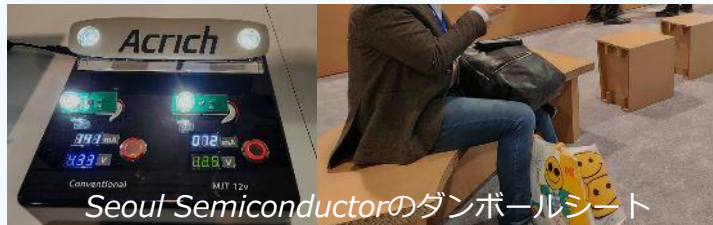
Mobis
Holographic
display



Scout
Traveler

	2021	2022	2023	2024	2025
来場者数	59,000 (オンライン)	▼ 50,000	▲ 115,000	▲ 130,000	▲ 141,000
出展者数	1,900	▲ 2,200	▲ 3,200	▲ 4,000	▲ 4,500
OEM 出展社数	5	▲ 8	▲ 14	▼ 11	▼ 9
メディア 来場者数	2,000未満	▲ 約2,000	▲ 4,800	▲ 5,000	▲ 6,000
スタートアップ 出展社数	700	▲ 800	▲ 1,000	▲ 1,400	■ 1,400

SBDの印象に残ったポイント



「Seoul Semiconductorは、5V LEDに比べて半分のmAで済むエネルギー効率の高い12V LEDを展示した。Volvoの内装に使われている太陽光を模倣するLEDは、内装の色をよりよくする。Seoul Semiconductorの持続可能性へのコミットメントは、同社のブースにある段ボール製のシートにも表れていた」

- Andrew Wilczynski



「CES 2025では、AR HUDやAIのような技術のエキサイティングな可能性が浮き彫りとなったが、FOMO主導の決定を避けなければならないというプレッシャーの中で、現実世界への影響や価値を慎重に評価する必要性も強調した」

- James Alford



「豊田章男氏は、今年後半に2,000人が入居するWoven Cityキャンパスのフェーズ1に関する最新情報を明確なビジョンと共に発表し、パーソナルモビリティデバイス、コンパニオンシップ、自動運転車を含む、イノベーションと持続可能な投資へのコミットメントを明言した。このイニシアチブは、業界の新しい4Sモビリティ・イニシアチブの特徴を数多く共有するもので、社会に有益なモビリティの達成に焦点を当てている」 - Jeffrey Hannah

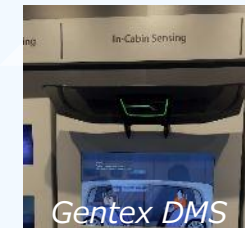


「CES 2025では、消費者と自動車との感情的なつながりが強調された。OEMやソリューション開発者は、ピラー・ツー・ピラーディスプレイ、AR HUD、生成AIベースのバーチャル・パーソナル・アシスタントをアバターとして展示した。しかし、いくつかのテーマベースのソリューションでは、ボタン、ノブ、ジェスチャー認識を使用し、消費者の価値に基づいたデザインを強化していた」

- Varun Krishna Murthy



「ホンダが昨年のゼロシリーズのコンセプトに対して、少しずつ実用的なアップデートを行っていることは新鮮で目を引く。コックピットの各要素は生産準備が整っている模様で、Afeelaに似ているように見える」 - Mike Levett



「今年は、より練り込まれた完成品を見ることができて新鮮だった。以前のデモや製品は目新しさを狙ったものが多く、十分に洗練されていなかった。今年はOEMのニーズが取り上げられ、より実用的な製品や使用例が議論され、展示されていた」

- Taylor Leone

4S MobilityをCESで発表

4S MobilityはCESにおいて、SBD Automotiveによる第2回年次OEMブレックファストで発表された。このイベントには20社以上の自動車メーカーから150名以上の経営幹部が参加し、業界全体の変革を推進することを目的とした、安全（**Safe**）、セキュア（**Secure**）、シームレス（**Seamless**）、持続可能な（**Sustainable**）モビリティに焦点を当てたユニバーサルフレームワークを紹介するものであった。

今年のプログラムはSBD Automotiveが主導し、GMの元チーフ・サステナビリティ・オフィサーである Kristen Siemen氏、Volvo Carsの元CEOである Håkan Samuelsson氏、AWS、HERE Technologies、Magna Internationalのビジョンを持つ面々など、著名な業界リーダーをパネリストに迎えた。

以下に掲げる4S Mobilityの4つの柱は、OEM、サプライヤー、政策立案者、NGO、技術プロバイダーが成果主導の成功を追求するための共通の基盤となり、業界全体の協調を促進するとともに長期的な成長を支える役割を果たす。

Safe
 **安全なモビリティ**
 移動によって命や健康に対するリスクが生じない

Secure
 **セキュアなモビリティ**
 盗難や危険から守られた状態である

Sustainable
 **持続可能なモビリティ**
 現世代の移動によって次世代に負担や不利益をもたらさない

Seamless
 **シームレスなモビリティ**
 困難さや不便さを感じさせることがない



CES 2025 -プレミアムレポート

CESにおける動向を詳細に解説

本書は、自動車業界に関連する重要なイベントについて包括的な洞察を提供する「**プレミアムイベントレポートシリーズ**」の1つである。

本書では、CESが自動車業界に与える影響を包括的に捉え、主要な話題や発表を取り上げるとともに、詳細な分析を通じて明らかになった事実やトレンドを深く掘り下げる。

プレミアムイベントレポートシリーズは、自動車業界に関連する重要なイベントについて包括的な洞察を提供する。CESを含め年間に開催される複数のイベントをカバーし、開催後速やかに英語版・日本語版のレポートを発行する。

お問合せ



	速報レポート	プレミアムレポート
ページ数	20+	100+
トレンド	✓	✓
カンファレンス	-	✓
イノベーション・アワード	-	✓
OEMの発表と分析	-	✓
サプライヤーの発表と分析	-	✓
スタートアップの発表と分析	-	✓





CES 2025のトレンド

CES 2025の主要トレンド



目次



SBDについて



お問い合わせ



CES 2025の主要トレンド

1. ヘッドアップディスプレイ

TFT-LCDベースシステム、プロジェクター、ホログラフィックシステム



BMW
Panoramic iDrive



Mobis
ホログラフィック
AR HUD



第1回国際コンピューター
AR HUD

3. ソフトウェア・ディファインド・ビークル

ECU統合とソフトウェアツールチェーン



Intel自動車開発環境



QNXがTTTech Auto
と車両ソフトウェア
プラットフォームを
共同開発



QualcommとNXP
の提携

2. 人工知能

自動走行のための人工知能と人工知能コンピュート



仮想AI開発のための
Nvidia Cosmos
基盤モデル



自動運転シーン作成のため
のHERE SceneXtract



SoCに搭載可能な
Hailo-8 AI
プロセッサ

4. 乗員モニタリング

乗員モニタリングソフトウェアと車載センサー



Gentexの赤外線
乗員モニタリング
カメラ



Emotion3D
乗員モニタリング
ソフトウェア



Omnivisionと
Panasonicの
車内モニタリング

主要トレンド 1：様々なヘッドアップディスプレイ技術

TFT-LCDベースHUD



TCL HUD



BMWパノラミックiDrive

TFT-LCD HUDがCES 2025で披露された。TFT-LCDスクリーン技術に基づくHUDは、BMW Panoramic iDriveの一部としてBMW Neue Klasseコンセプトで、また次期ソニー・ホンダAfeelaで披露された。

TCLは、フロントガラスに映し出される3つのTFT-LCDスクリーンを含む単一のHUDアセンブリを展示した。3つのスクリーンはコックピットの全幅に配置されている。

TCLとBMWのパノラミックiDrive HUDはどちらも、太陽光による眩しさを軽減するために、フロントガラスに暗色のエリアを設けている。このエリアは、直射日光の下でもHUDの視認性を確保し、画像にコントラストをつける効果がある。



ポイント

TFT-LCDスクリーンの反射を利用したHUDは、今後3-4年のうちにプロジェクターベースやホログラフィックのシステムに取って代われ始めるだろう。CES 2025では、ZEISSとMOBISがホログラフィックHUD技術を実装するパートナーを探していた。

プロジェクターとホログラフィックHUD



MobisホログラフィックHUD



BRYTNブース

プロジェクターやホログラフィック技術を使ったHUDも展示された。Hyundai MobisとZEISS Microopticsは共同開発したホログラフィックHUDを発表した。

今回発表されたホログラフィックシステムでは、フロントガラスにオプティカルレイヤーを設ける。このレイヤーはドライバーに光を反射するためのものである。

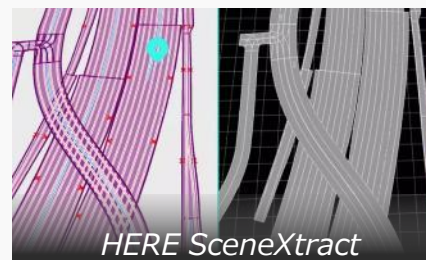
First International Computer (FIC) は、ホログラフィック技術に代わるレーザービーム走査式HUDのデモを行った。FICはこの技術が商用車の垂直なフロントガラスに使用できることを実証した。

ポイント

プロジェクター式HUDは画像のコントラストに優れているが、これはARレーンレベルのADやADAS情報をフロントガラスに表示する際に重要である。プロジェクター式HUDユニットのサイズは、同等のTFT-LCDシステムが7～13リットルであるのに比べ、1リットル程度で済む。

主要トレンド 2：AIの重点的な利用

自動運転のためのAI



CES 2025では、AIがどのように現実の環境を表す仮想シーンやシナリオを生成するかを各社が実演した。仮想シーンを生成することにより、自律走行システムの動作を仮想環境でテストすることができる。

HERE TechnologiesはSceneXtractを発表した。これは、自動システムや自律走行システムの仮想テストを行うために地図データから実世界の状況を見つけてレンダリングするAIソリューションである。

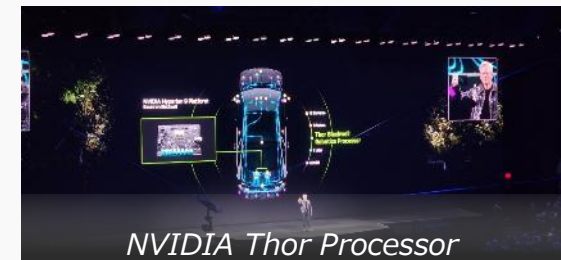
NVIDIAはCosmosを発表した。これは、機械学習モデルのトレーニングを目的とした実世界シミュレーションのスケールアップに役立つ、世界基盤モデルである。



ポイント

自動車メーカーにとって、自動運転への慎重なアプローチは変わらないだろう。Nvidia Cosmosのような技術は、L2+およびL3システムの開発に役立つかもしれない。自動車メーカーは、AIのファイル形式をテスト用ソフトウェア形式に変換する方法を検討する必要がある。変換には時間がかかるかもしれない。

AIコンピュート



人工知能モデルは、大規模なデータセットを使って車外でトレーニングすることができる。このトレーニングプロセスには、かなりのコンピューティングパワーを必要とする。一旦モデルがトレーニングされれば、車載モデルを実行するのに必要なパワーは少なくなる。

CES 2025でHAILOは、適切な演算能力を持ちながら、他のチップセットよりも熱効率の良いエッジAIチップを展示した。

Intelは基調講演で、新しい車載用SoCを強調した。



ポイント

AIは高い演算能力を必要とするが、これは電気航続距離のために効率を向上させようとする自動車メーカーの努力に逆行する。NVIDIAのプロセッサとHAILOのプロセッサとの違いのひとつは、発生する熱の量、つまり必要なエネルギーの量である。

主要トレンド 3：ソフトウェアツールチェーンがハードウェアの普及を促進する

ECUの統合



Intelは、基調講演で新しい車載用SoCを強調した。Intelは現在、オートモーティブ仮想開発環境と共に全車両プラットフォーム（コンピュービジョンとセーフティクリティカルシステムを含む）を提供している。この仮想開発環境はAmazon Web Servicesと共同開発された。

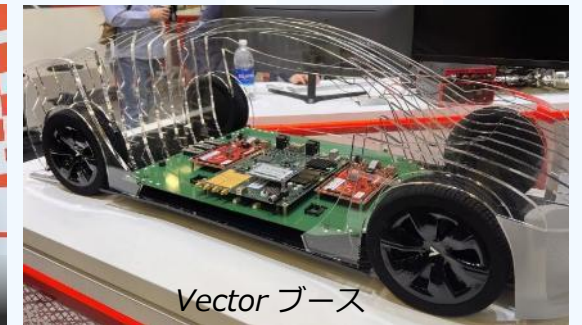
QualcommとNXPは、チップセットの性能や競争力を高めるため、ソフトウェア・スタックの強化に取り組んでいる。これは、NXPによるTTech Autoの買収で明らかである。



ポイント

リファレンスプラットフォームや標準化されたツールチェーンがないため、自動車メーカーは依然としてSDVへの対応について試行錯誤している状況である。プロセッサとコンピューティングの統合はまだ初期段階だが、ECUの統合を望む自動車メーカーをサポートする製品は増えつつある。

ソフトウェア・ツール・チェーン



QNXは、高度な車載コックピットシステムの開発用に設計された、統合済みのデジタルコックピットソフトウェアリファレンスフレームワークを発表した。これは、セーフティクリティカルなQNXアプリケーションとLinuxおよびAndroid Automotiveを組み合わせるものである。

Red Hatは、Red Hat車載オペレーティングシステムに、認定された混合臨界性機能安全サブシステムを追加することを発表した。このOSはLinuxをベースにしている。

ETASは、SDV開発の重要な部分であるミドルウェアに焦点を当て、ソフトウェアのテストと開発を可能にするツールを発表した。



ポイント

自動車メーカーは、チップセットとソフトウェアの独自設計に投資するのか、それともECUの機能をゾーン・システムやセントラル・コンピューティング・システムに適切に統合できるツールチェーンやミドルウェアを採用するのかを決めなければならない。

主要トレンド 4：乗員モニタリングのためのセンサーフュージョン

車載センサー



市場に出回っているドライバーモニタリングシステムのほとんどは、RGBカメラを使用している。しかしRGBカメラには限界がある。RGBカメラは物体を見通すことができないため、バイOMETRICS認証には適さない可能性がある。

Gentexは、ミラーとオーバーヘッドマウントカメラシステムを展示した。用途に応じて、RGBカメラとIRカメラの両方を提供できる。GentexのソリューションはIRを使って空気中の汚染物質を検出することができる。

CubTEKは、ルーフに取り付けた車載用短距離ミリレーダーを展示した。レーダーはカメラと違って個人情報を収集しない。

GENTEX
CORPORATION

Valeo

CubTEK

ポイント

RGBカメラは、バイOMETRICS認証や支払いに必要な情報を十分に提供しない可能性がある。そのためRGBカメラは、GentexのデモのようにIRカメラと組み合わせたり、CubTEKのデモのようにレーダーと組み合わせたりすることができる。IRカメラは家電業界で使用されている。

乗員モニタリングソフトウェア



ドライバーと同乗者のデータを収集するには、車載ハードウェアが必要である。そしてこのデータを分析するためのソフトウェアが必要となる。EuroNCAP、GSR II、中国GB/Tの要件に適合することが主な推進要因となるが、将来的にはさらに機能が追加される可能性もある。

LGは、Intelの車内センシング技術を使ったドライバーモニタリングのデモを行った。このシステムは、目の動き、心拍数、ストレスレベルを検知できるほか、人がハンドルに近づきすぎているか、シートベルトの位置（オン/オフ）、注意散漫になっていないかなども検知する。

Emotion3Dは、規制要件を満たし、さらにジェスチャーや感情を認識することもできる乗員モニタリングソフトウェアを披露した。

GENTEX
CORPORATION

EMOTION3D

LG

ポイント

乗員モニタリングカメラからのデータを分析するソフトウェアは各社から提供されている。LGのソフトウェアは、ドライバーがサングラスをかけているかどうか、飲酒しているかどうか、心拍数かどうかを確認することができる。EMotion3Dはジェスチャー認識機能のデモを行った。



その他のトレンド (1/2)

5.

照明



OLEDWorksは様々なOLEDリアライトパネルを展示した。OLEDWorksはAudi A5とS5にリアライトを提供している。



OPMobilityは、米国市場向けにRivianのアダプティブハイビームフロントライトクラスターのデモを行った。米国では最近規制改正があり、このようなシステムが認められるようになった。

6.

シフトレフト



Siemensは仮想車両開発プラットフォームのデモを行い、スタートアップ向けにソフトウェアの複数年割引（最大90%）を発表した。



Elektrobit

Elektrobitは、仮想テストと検証のためのクラウドベースの開発プラットフォームを発表した。同社はこのツールによってOEMが意思決定を「シフトレフト」とできると主張している。

7.

光学



ZEISSは、光を反射するオプティカルレイヤーをスクリーンに適用する方法を実演した。この層はカメラに光を反射させるために使用される。



METAOPTICS

Metaopticsはシンガポールを拠点とするスタートアップで、ガラスウエハレンズを開発している。このレンズはプロジェクターや顔認識カメラに使用できる。

8.

オートメーション



ZEEKR

Zeekrは、Zeekr RTの量産計画を発表した。RTは同ブランド初の量産型自動運転車である。



JOHN DEERE

John Deereは最新の自律走行システムを展示した。労働力不足がこの技術の開発を後押ししている。



その他のトレンド (2/2)

9. パーソナライゼーション



Toggは、HERE Technologiesと提携し、ドライバーの行動を考慮したEV専用ルーティングを提供する。このソリューションは、パーソナライズされたPOIを提供する。



Great Wall Motorが発表したインターフェイスでは、ユーザーが画面上や空中でジェスチャーを使ってコンテンツを操作したり、コンテンツの表示場所をパーソナライズ（画面間を移動）することができる。

10. コネクテッドセーフティ



Boschは、SiriusXMと提携した。この提携により、BoschはOEMパートナーに標準化されたドライバー誤発進警告システムを提供できるようになる。



Aidenは、HERE TechnologiesおよびHAAS Alertと協力し、コネクテッド機能に対してより一層包括的なプライバシー管理を導入した。

11. 車両AI



SoundHoundAIは、新しい車載音声コマースプラットフォームを発表した。NVIDIA DRIVE AGプラットフォームをベースにしたSoundHound Chat AIも発表された。これはエッジコネクティビティを提供するものである。



Tweddleグループは、パーソナライズされたAI車載音声アシスタントであるAVAを発表した。Tweddleでは、AVAは特定の車種やトリムに関する質問に答えることができるとしている。

12. スタートアップ企業



Provizioは、NVIDIA DRIVE AGXを内蔵したインテリジェンス機能付のレーダーセンサーを発表した。このセンサーはSAE L3以上の自動運転を目指している。



TsingCarは、生命検知機能を備えた車内用超広帯域レーダーを発表した。TsingCarでは、このシステムは動きや呼吸を感知できるとしている。



CESのトレンドの推移とOEMのアプローチ

2022-2025の比較



目次



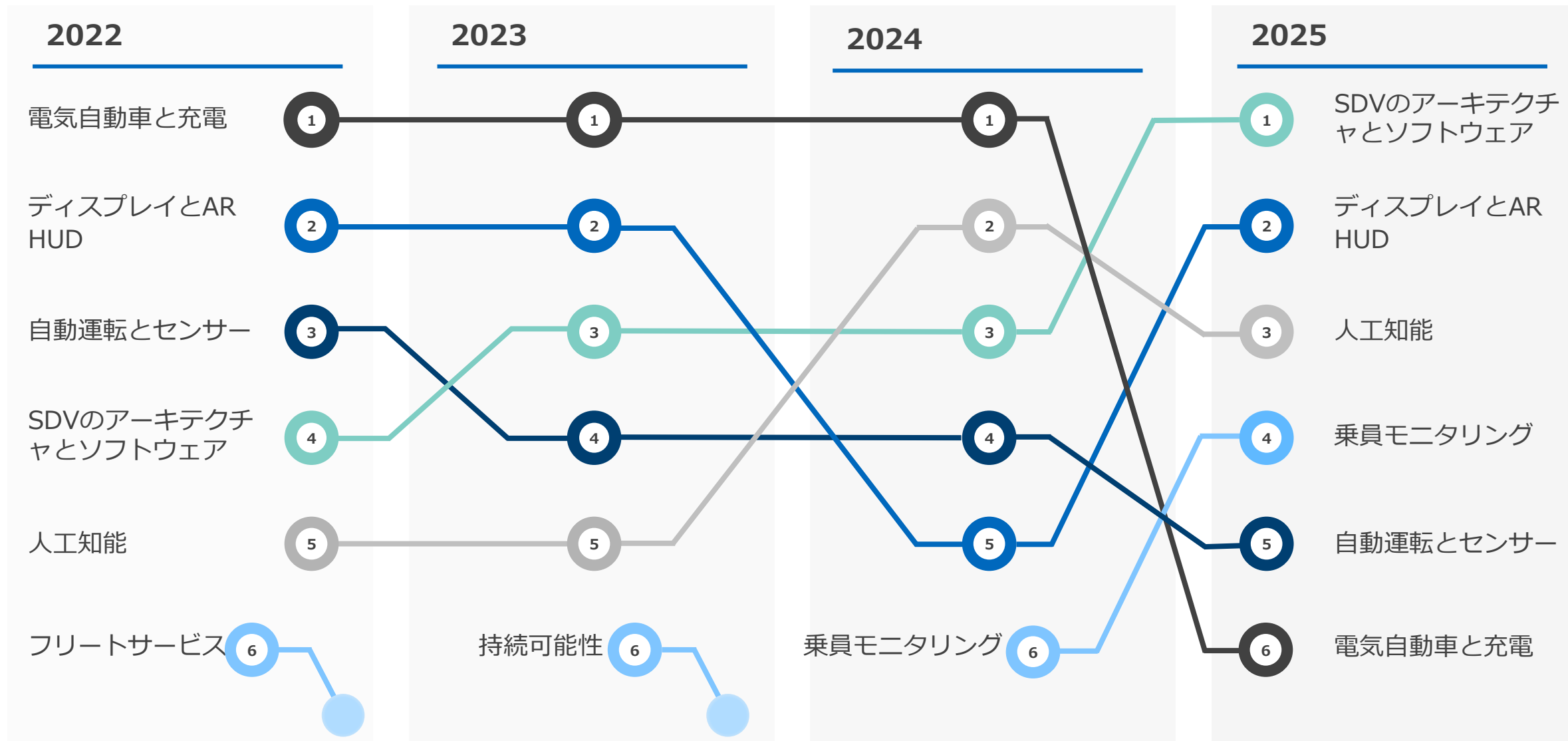
SBDについて



お問い合わせ



CESのトレンドの推移





CESへの出展に関するOEMのアプローチ

一貫したアプローチ



i Vision Deeコンセプト

HONDA新しいグローバルEVラインナップ
Zeroシリーズ**HONDA**ゼロシリーズの内装と外装照明の
変更将来のモデルに向けた
拡張現実体験とLLM統合の開発Neue Klasseの
Panoramic iDrive HUD**AFEELA**
Sony Honda Mobility

コンセプトカーAfeelaを公開

AFEELA
Sony Honda MobilityAfeelaのメディアバーと
L3自動運転機能**AFEELA**
Sony Honda MobilityAfeelaの予約注文と機能サブス
クリプションの詳細

2023



2024



2025



変化するアプローチ



開発中のVF6、VF7、VF9

車両計画を超えたプラットフォーム
を発表

ピックアップトラックのコンセプト



CESに初出展

インテリジェント・ドライビン
グ・ドメイン・コントローラー
と800Vソリューション米国における充電ネットワ
ークの発表

コンセプトCLAクラスを北米初公開

Mercedes-Benz NA
- ミーティングルームのみ



次のステップ°

SBD Automotiveが提供するサービス



目次



SBDについて



お問い合わせ



SBDの調査サービス

コンサルティングサポート - 自動車関連の主要工程ほぼ全てをカバーするオーダーメイドのプロジェクト



調査サポート

データ、予測、消費者インサイトを迅速に提供

詳細 [▶](#)



戦略コンサルティング

業界をナビゲートするための洞察に富んだプランニングサポート

詳細 [▶](#)



技術コンサルティング

ディストラティブな技術領域における評価サポート

詳細 [▶](#)



テストサポート

経験豊富なエキスパートによるUX、パフォーマンス、ペネテストのサポート

詳細 [▶](#)



SBDの調査サービス

調査レポート – 最新の調査結果を迅速に提供



CES 2025プレミアムレポート

2025年1月24日発行予定

CES 2025イベントの詳細レポート。ラスベガスで開催される本イベントを自動車に焦点を当てて分析し、包括的なインサイトを提供する。

詳細



E/Eアーキテクチャガイド (401)

E/Eアーキテクチャに関する的確な判断が、自動車の安全性、セキュリティ、システムの使いやすさの向上につながる。

詳細



自動車業界におけるAI (215)

広告業界やデジタル業界では生成AIが深く浸透しつつある。自動車業界においてもAI技術がバリューチェーンに与える影響を特定し、将来を予測することが極めて重要である。

詳細



EV最新動向ガイド (623)

SBDの『EV最新動向ガイド』は、量産モデルの乗用車EVや小型商用車EVの現状と特徴を分析し、インサイトを提供する。

詳細





SBD Automotive のお問い合わせ先

SBDが提供するCES関連レポート、インサイト

- [CES 2025で見つける次世代の自動車トレンド](#) **インサイト公開中**
- [SBD Automotive CES 2025ツアーマップ](#) **提供中**
- [CES 2025 速報レポート](#) **本書**
- [CES 2025 プレミアムレポート](#) **2025年1月24日
発行予定**

SBD Automotiveの調査レポートやコンサルティングサービスに関する
ご質問やご意見をお寄せください：



postbox@sbdautomotive.com

SBD Automotive の CES担当スタッフ



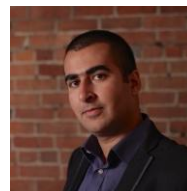
Andrew Hart
Chief Executive
Officer



Jeffrey Hannah
Chief Commercial Officer



Brandon Miller
CES Project Manager



Mo Al-Bodour
Consulting Manager



Taylor Leone
CX Specialist



Andrew Wilczynski
Research Analyst



Varun Krishna Murthy
Senior Consultant



James Alford
Senior Consulting Specialist



Mike Levett
Senior Analytical
Reporter



お問い合わせ



SBD Automotive のお問い合わせ先

本書の内容、SBDのその他の調査・サービスについてのお問い合わせ

本書の内容、SBDのその他の調査・サービスについてお問い合わせは
SBD Automotive ジャパン (Postbox@sbdautomotive.com)
およびSBDのグローバル各拠点にて承っております。



Postbox@sbdautomotive.com

お問い合わせ



米国

英国

ドイツ

インド

中国

日本

各拠点のサポートエリアと担当窓口



日本、韓国、東南アジア、オーストラリア
日本オフィス
postbox@sbdautomotive.com
+81 52 253 6201

中国
中国オフィス
salesChina@sbdautomotive.com
+86 18516653761

英国、西・南欧
Luigi Bisbiglia
luigibisbiglia@sbdautomotive.com
+44 1908 305102

ドイツ、北・東欧
Andrea Sroczynski
andreasroczynski@sbdautomotive.com
+49 211 9753153-1

北米
Garren Carr
garrencarr@sbdautomotive.com
+1 734 619 7969